

スライドセミナー 症例1

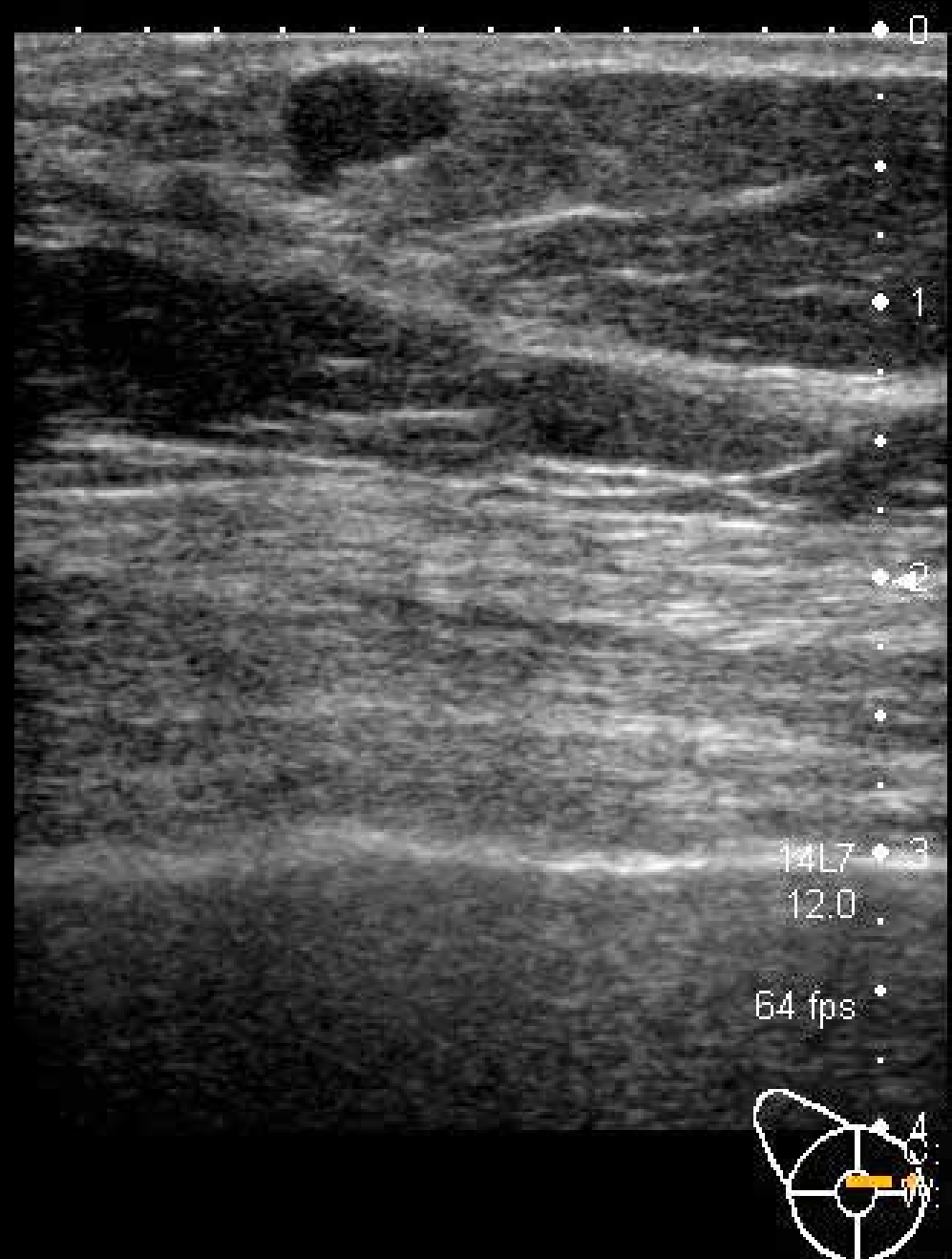
**潤和会記念病院病理診断科
林 透**

**第48回日本臨床細胞学会秋季大会
2009.10.20,31 (福岡市)**

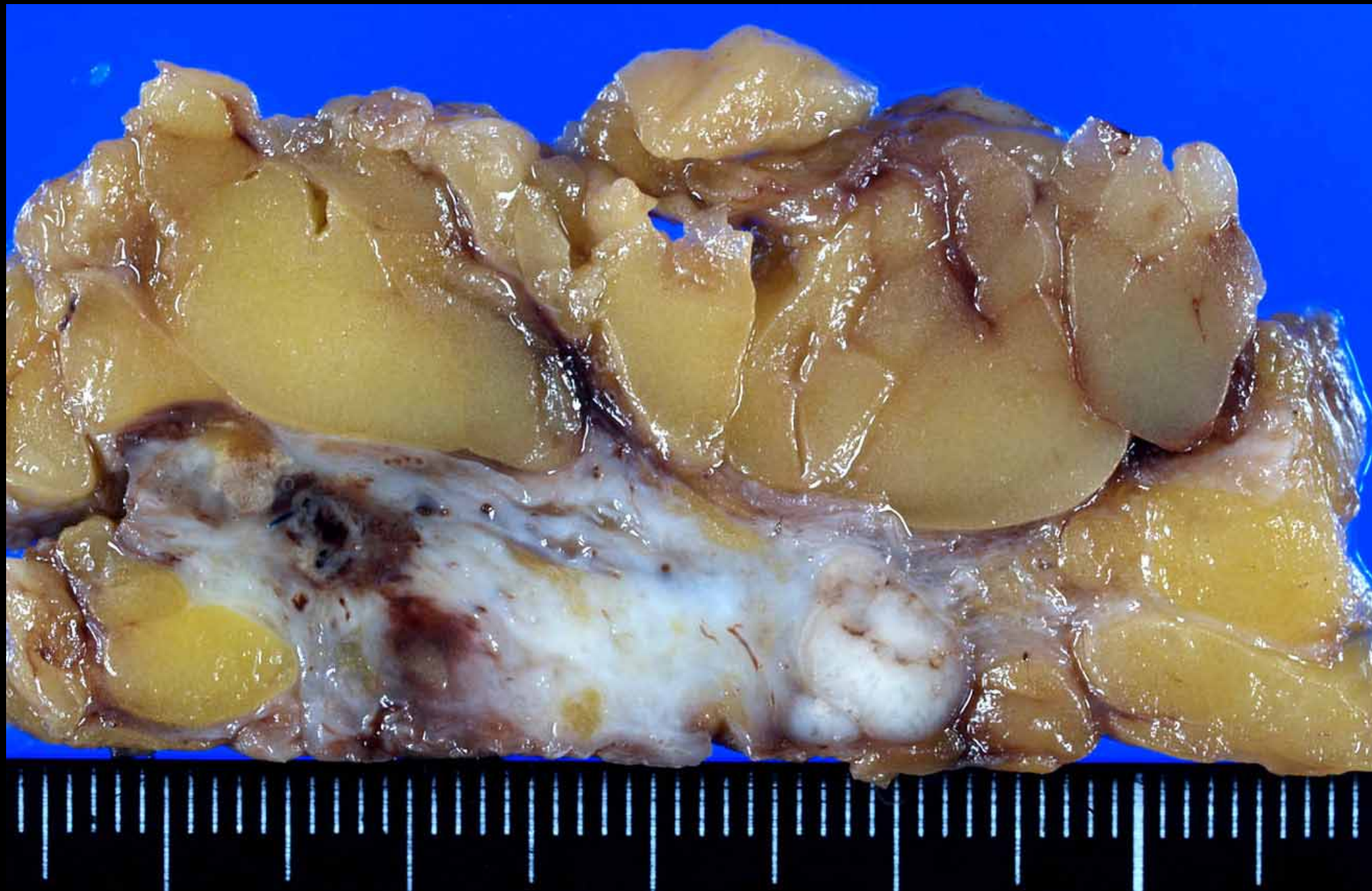
Mammography; MLO



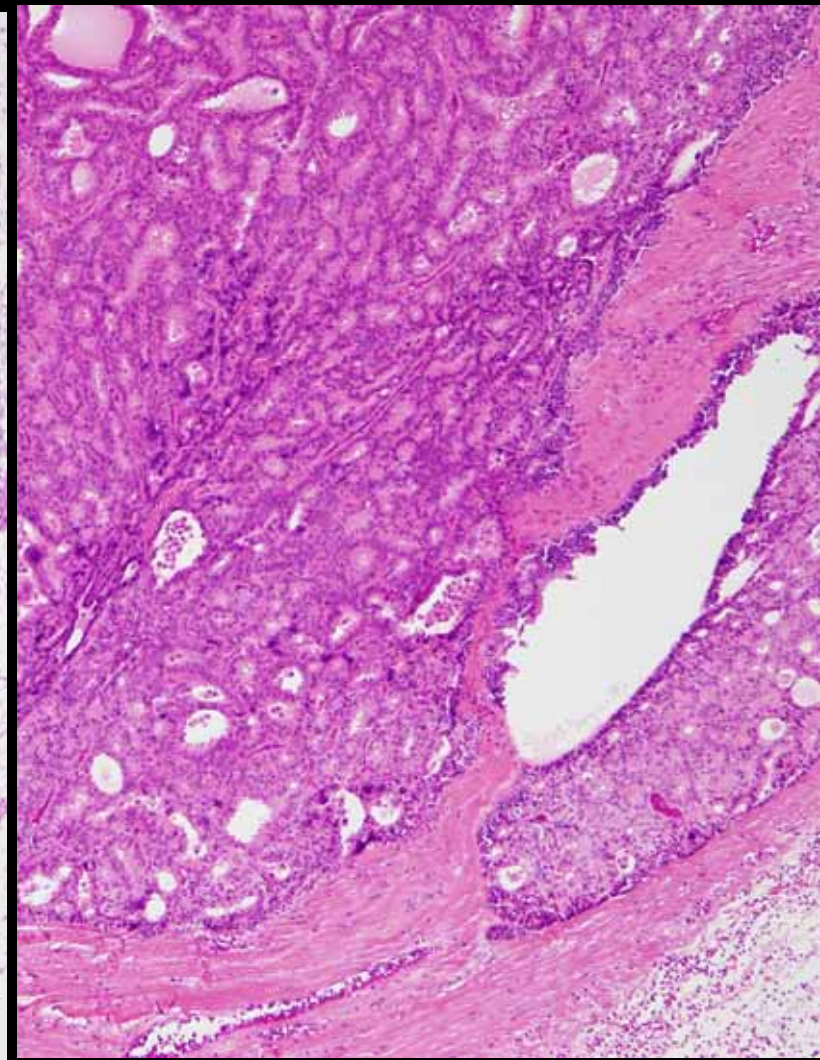
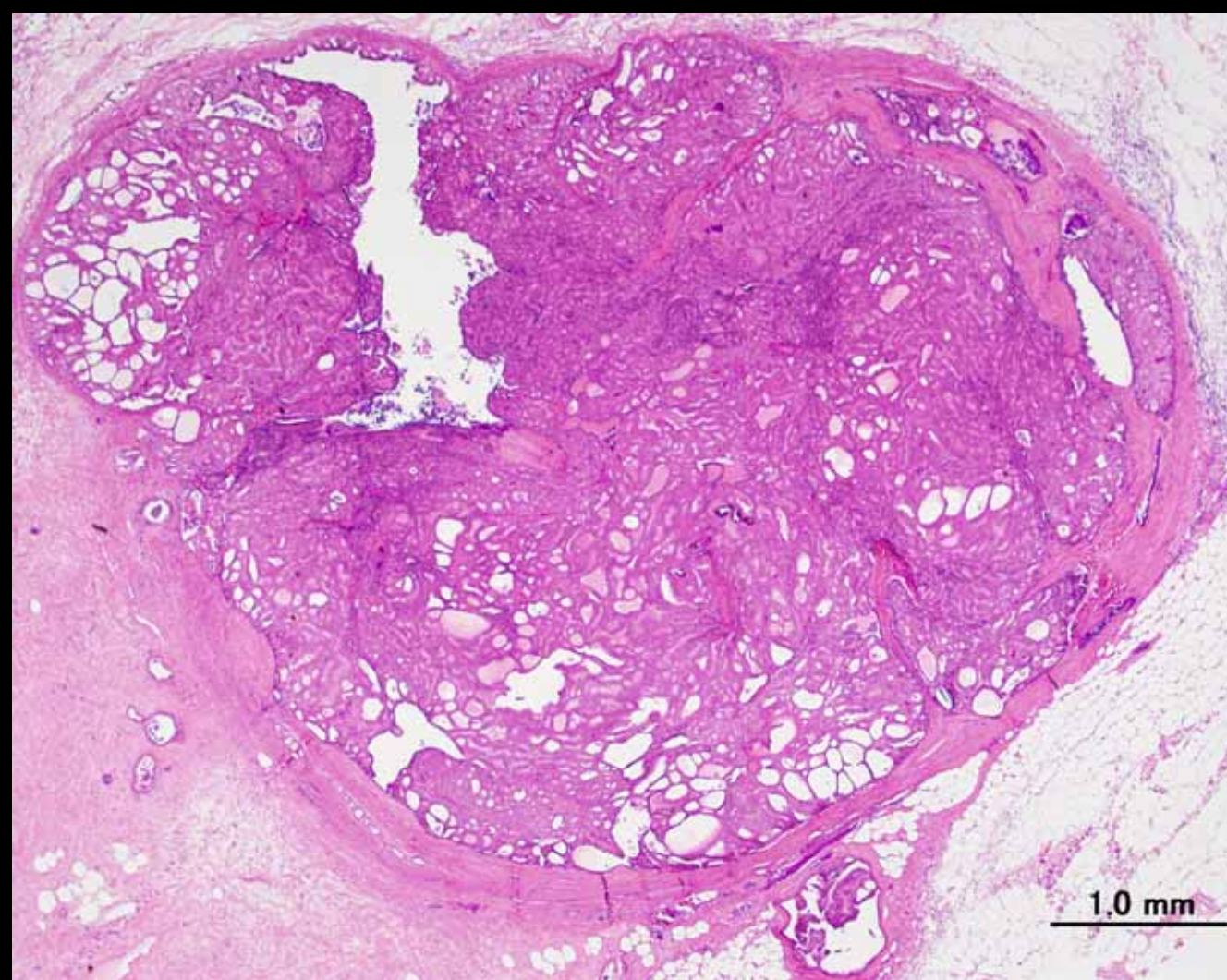
Ultrasonography



円状切除術肉眼所見

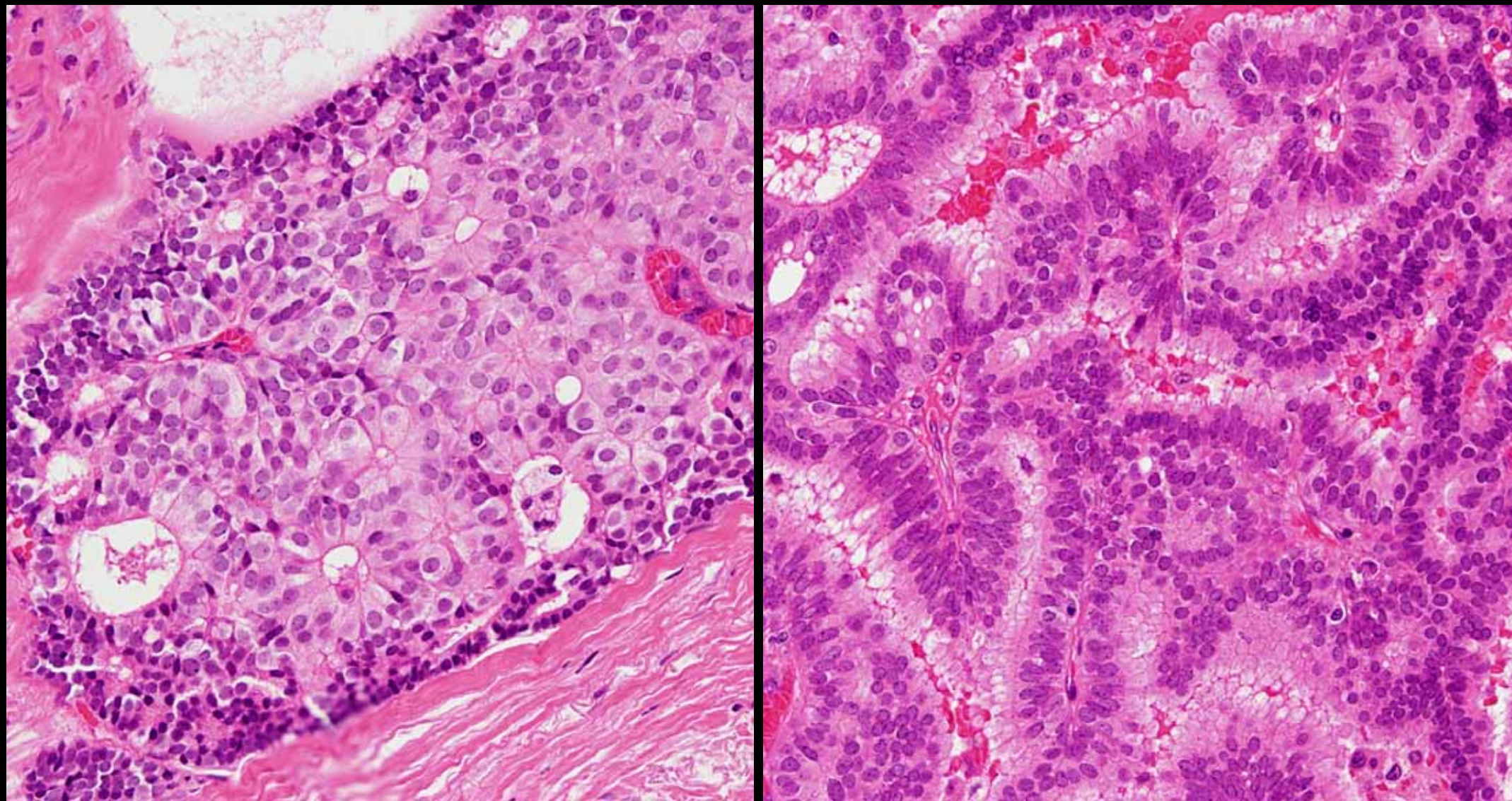


円状切除術材料での腫瘍ルーペ像

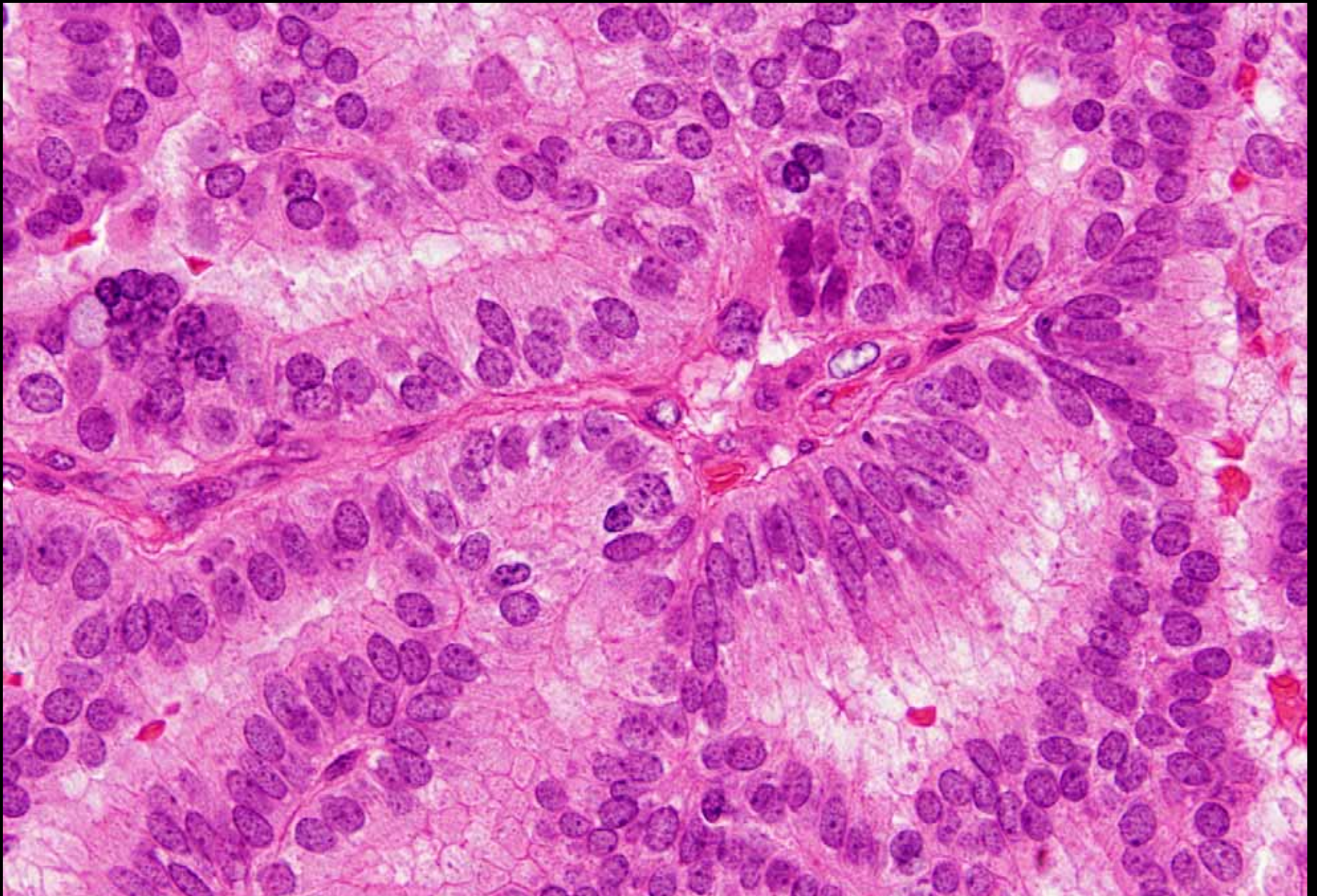


拡張した乳管内で膨張性に発育する腫瘍組織は腺管形成および一部乳頭状構造を呈する。右写真では周囲乳管内への進展を示す。

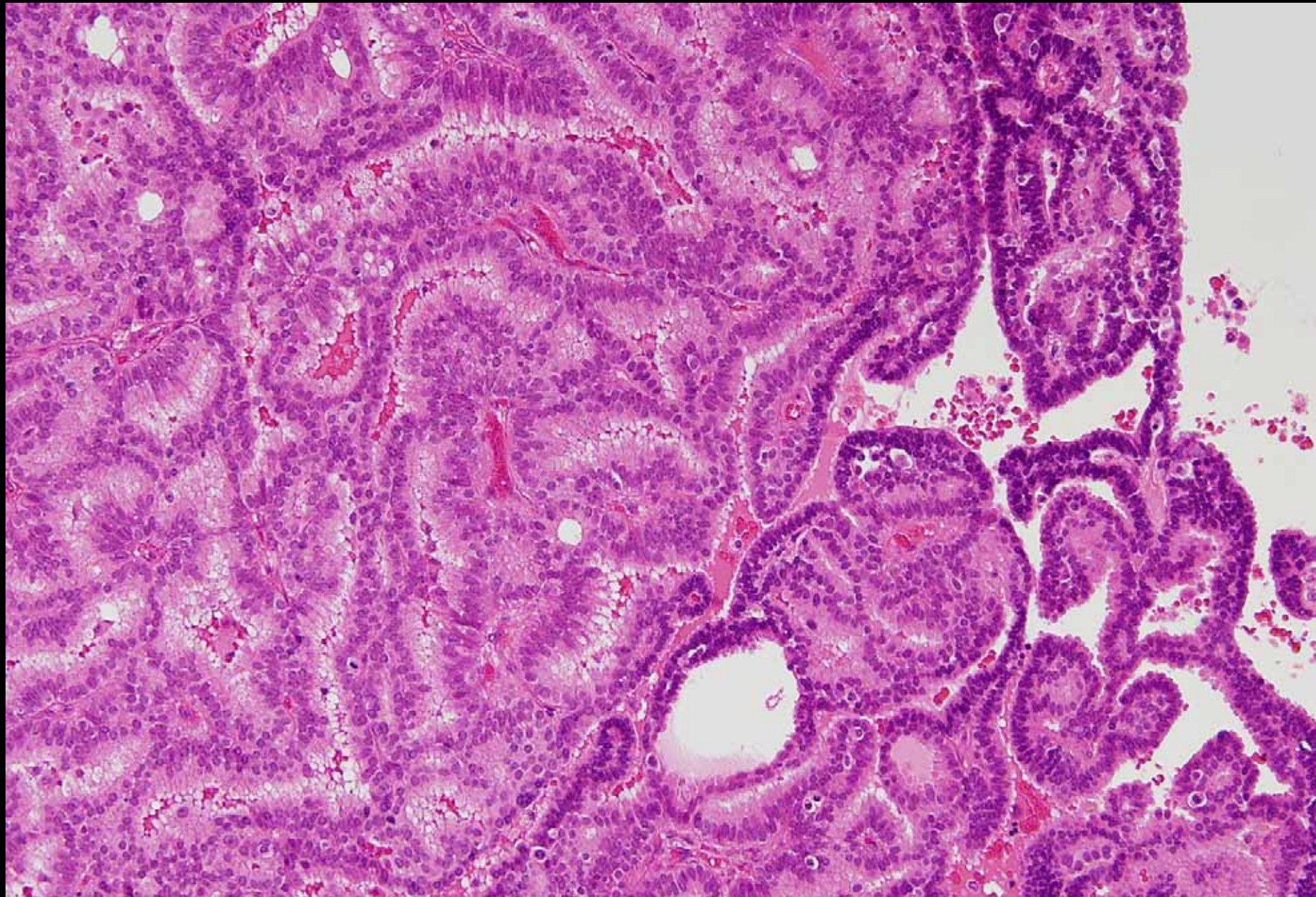
円状切除術材料の組織像



拡張した乳管内で膨張性に発育する腫瘍組織は腺管形成および一部乳頭状構造を呈する。周囲乳管内に進展する部分(左写真)では細胞極性を保つ篩状構造を示す。

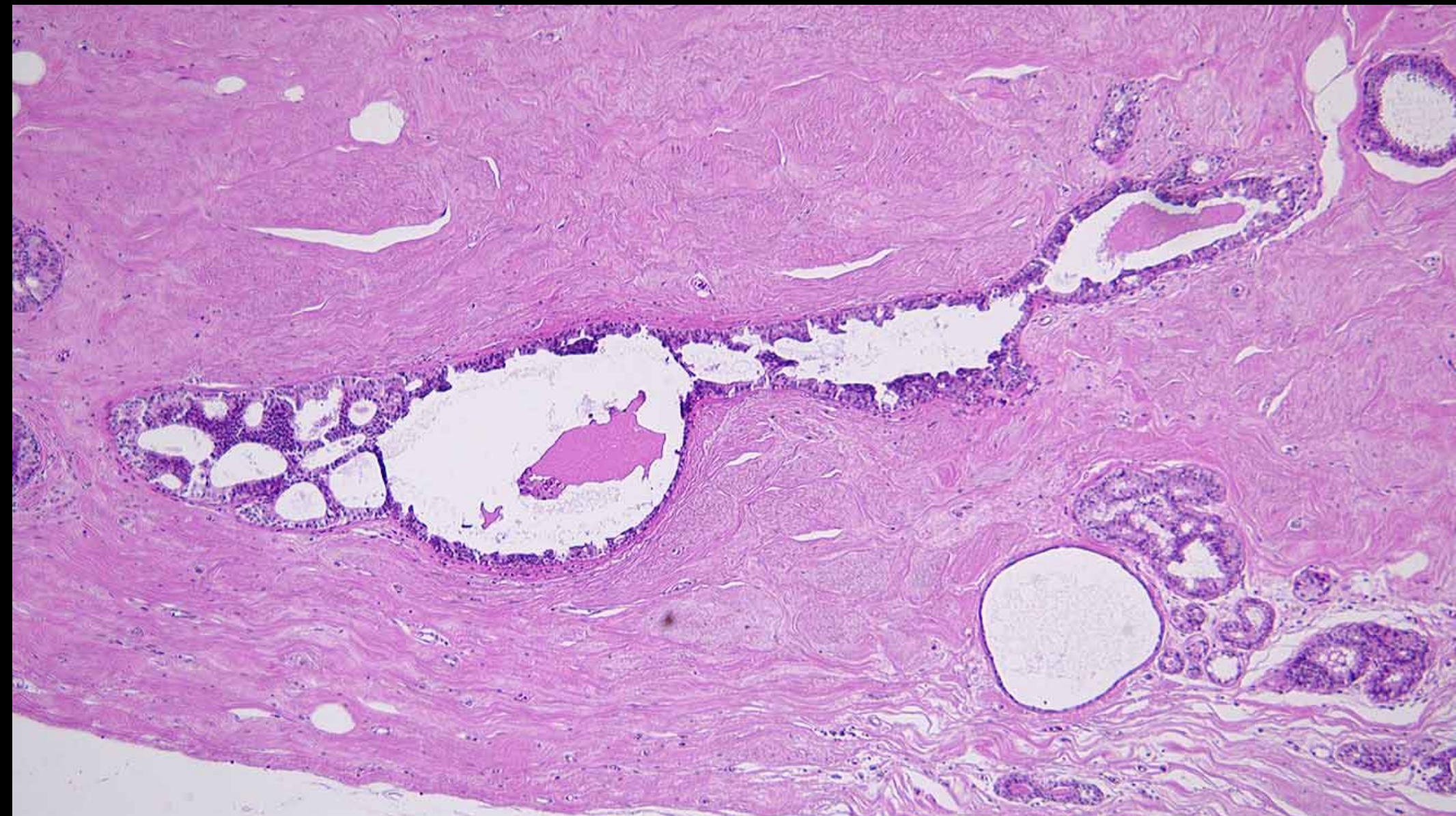


腫瘍は円柱状腫瘍細胞で血管性間質を伴う。筋上皮はみとめられず、円形ないし楕円形の単調な核を有す。

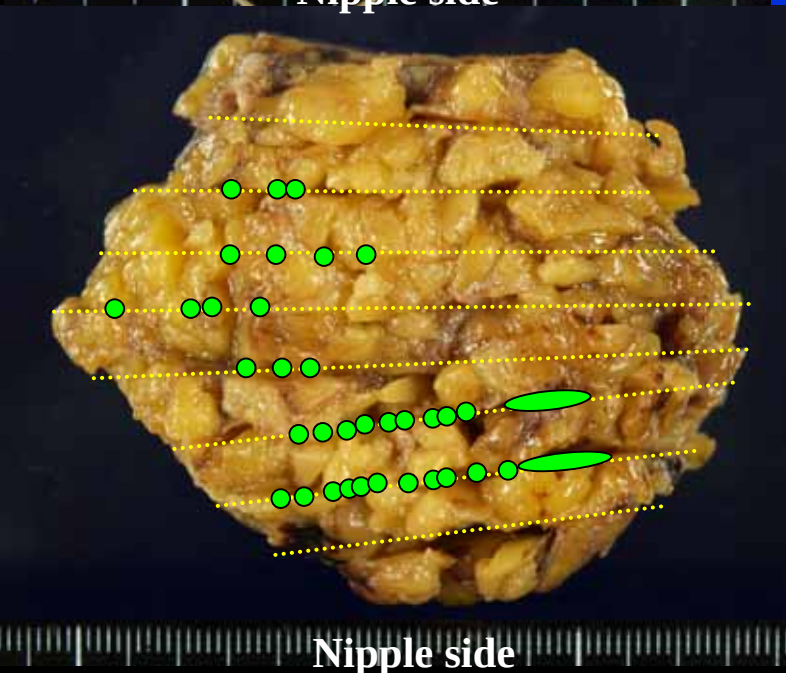


円柱状ないし立方状の腫瘍細胞は円形ないし楕円形の核を有し単調な像を呈する。乳管のスペースに面する部では乳頭状構造を示すが化生性変化はみとめない。

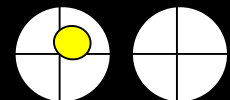
乳管内進展を示す部分



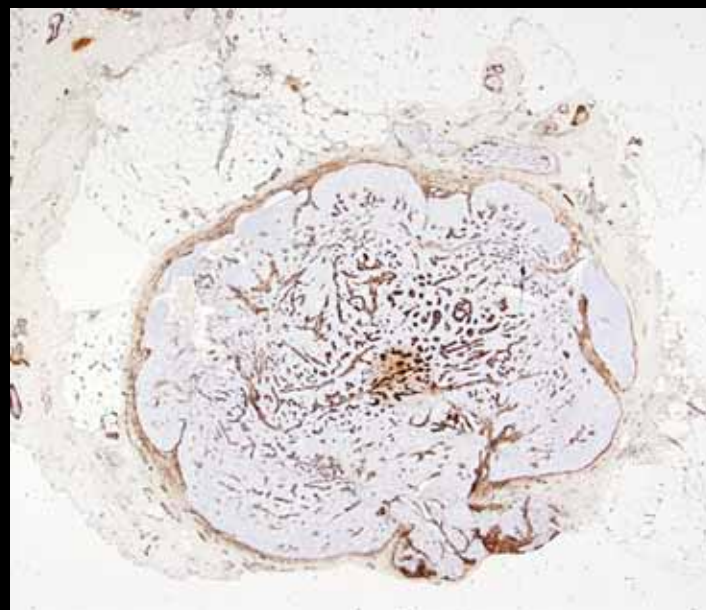
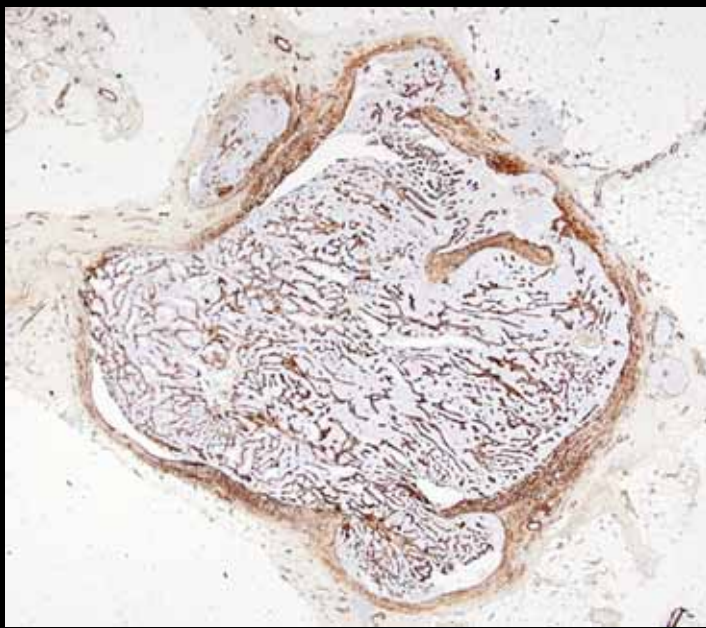
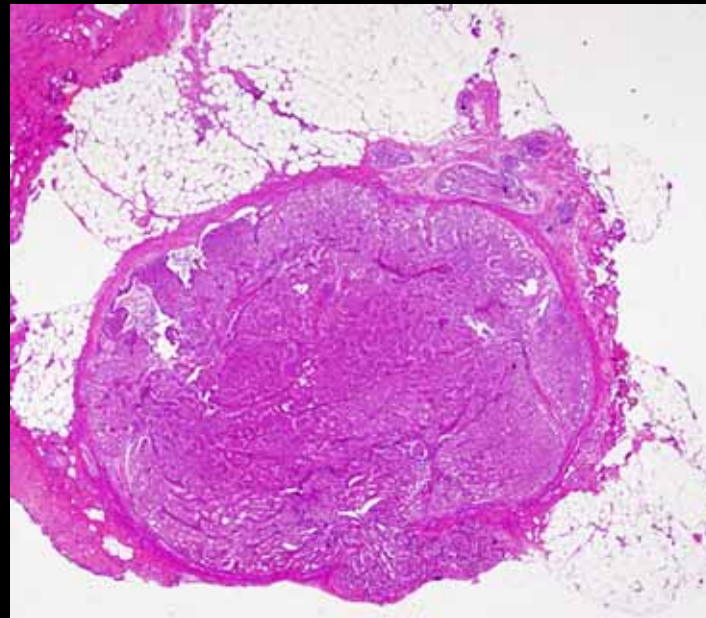
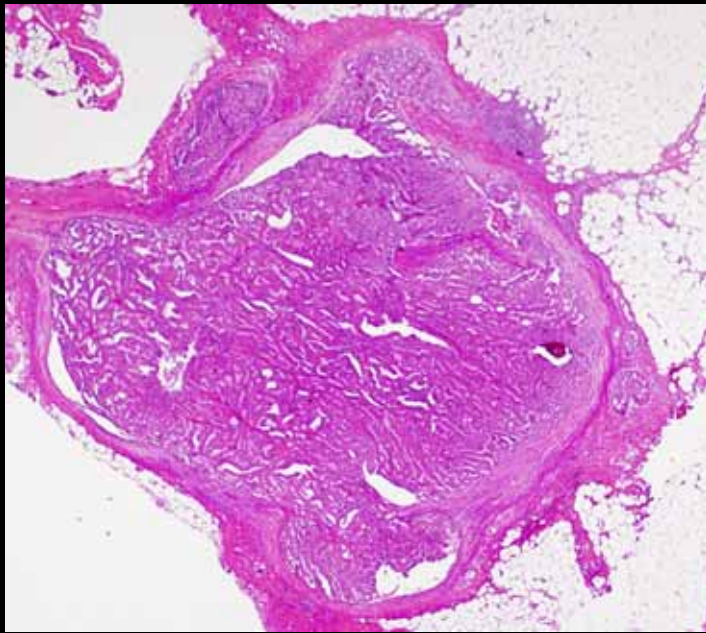
腫瘍組織分布



Right breast, A area (Bp)

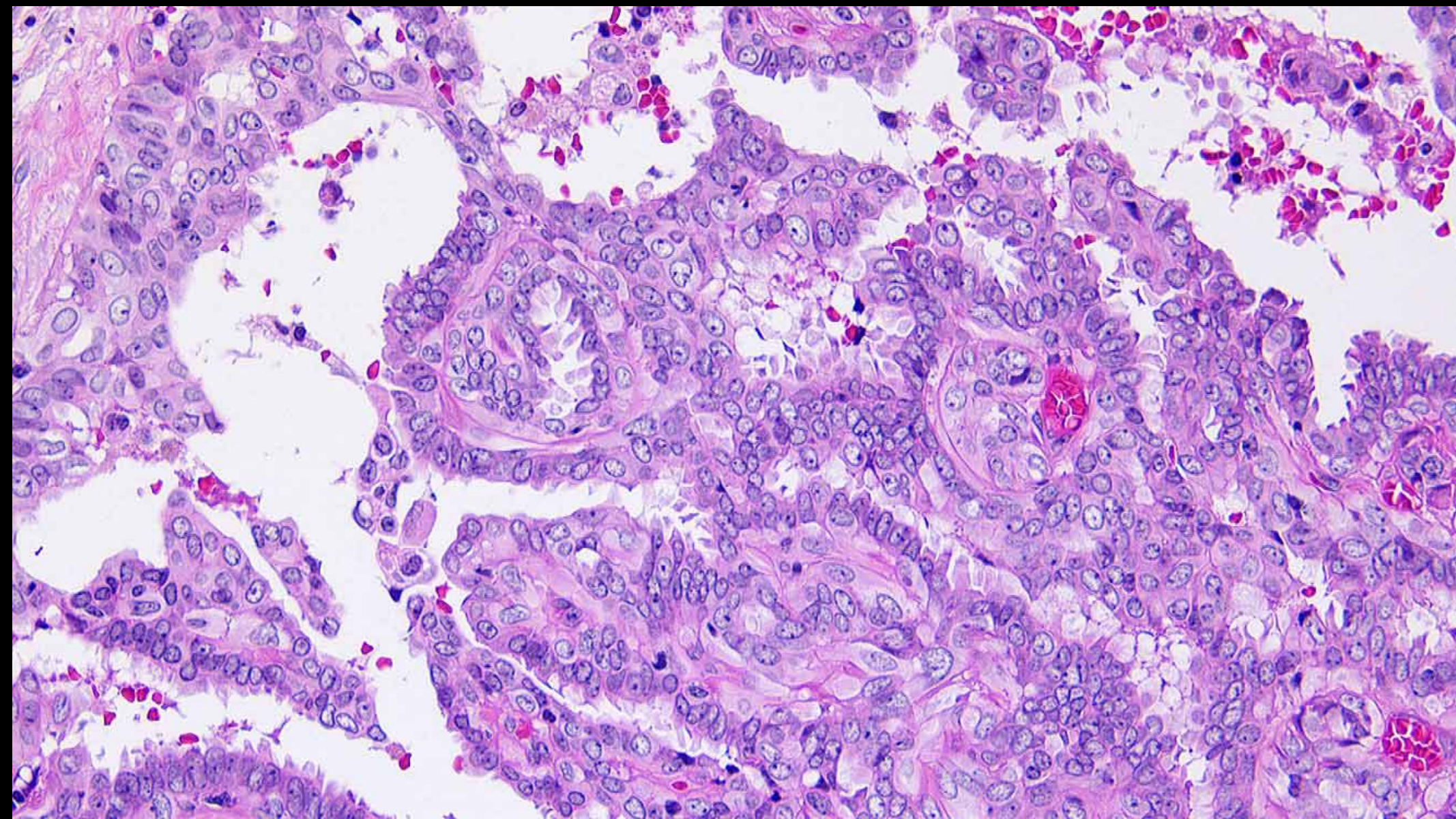


初回の切開生検材料のルーペ像



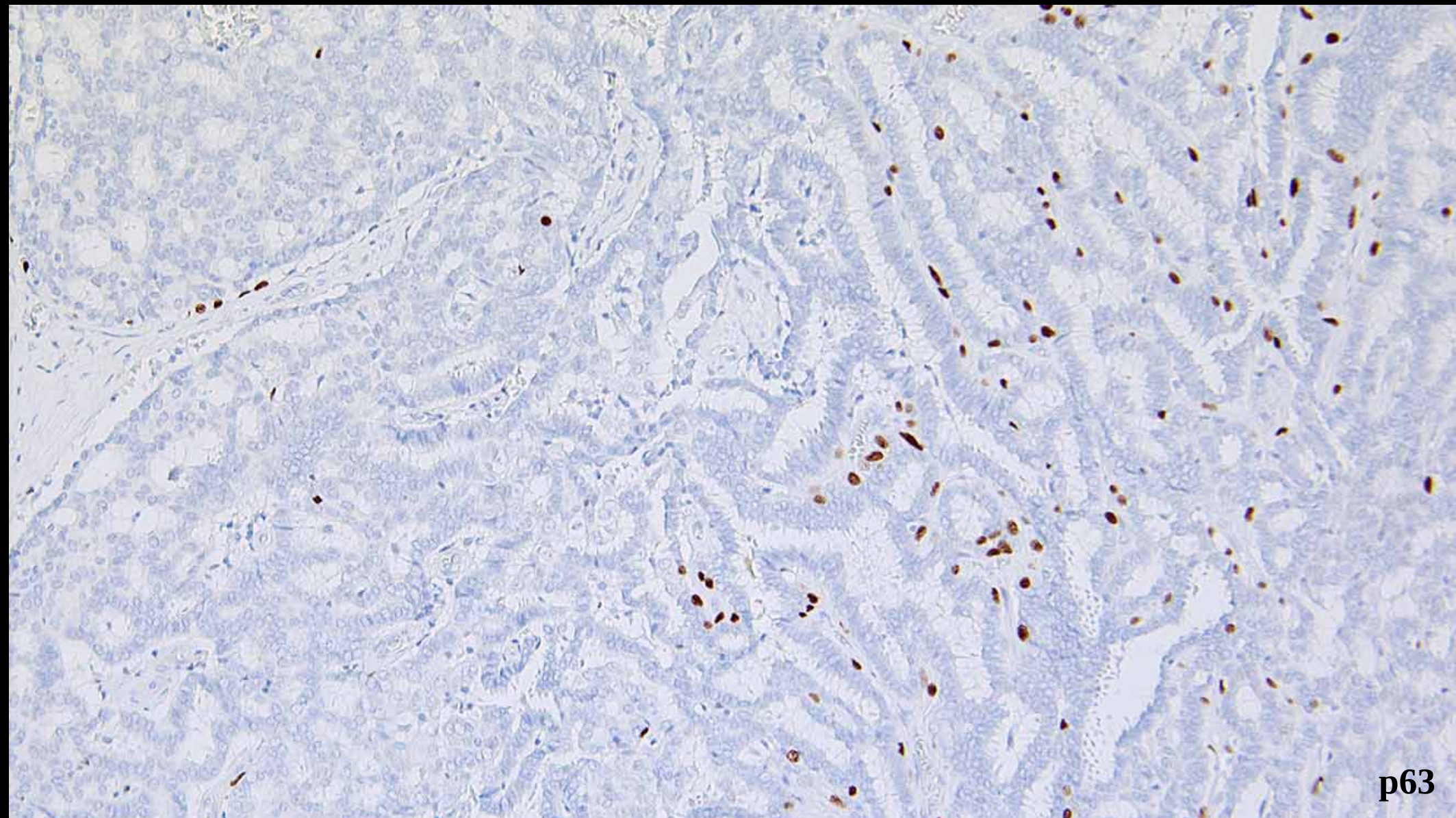
α -SMA

初回の切開生検材料の組織像



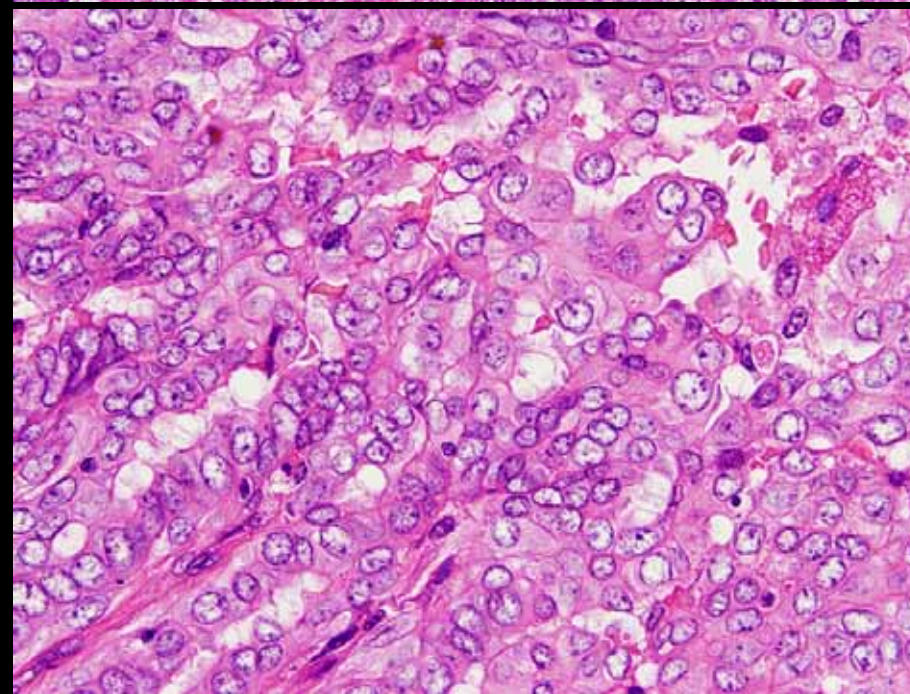
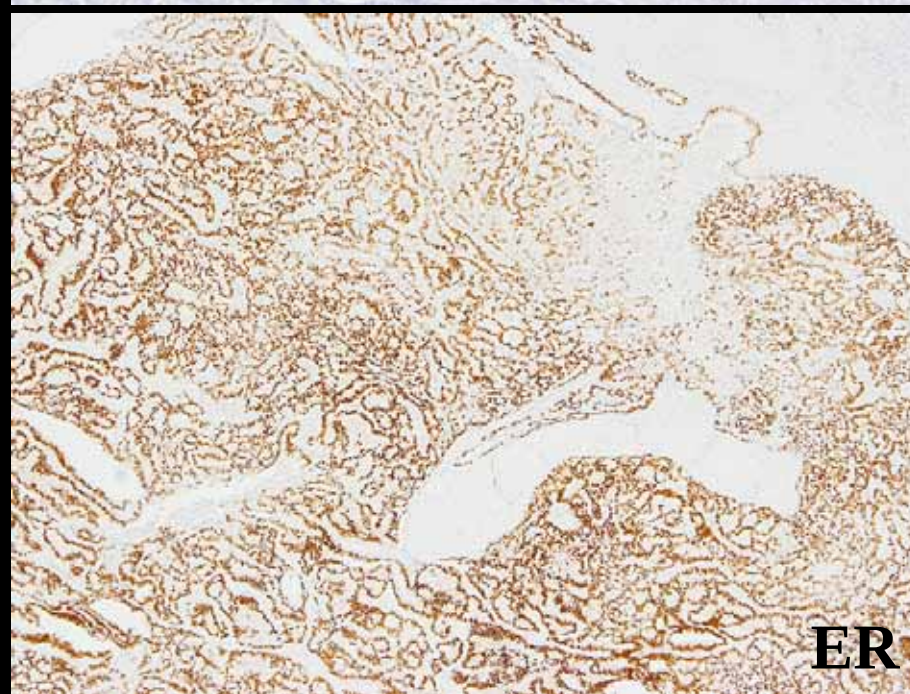
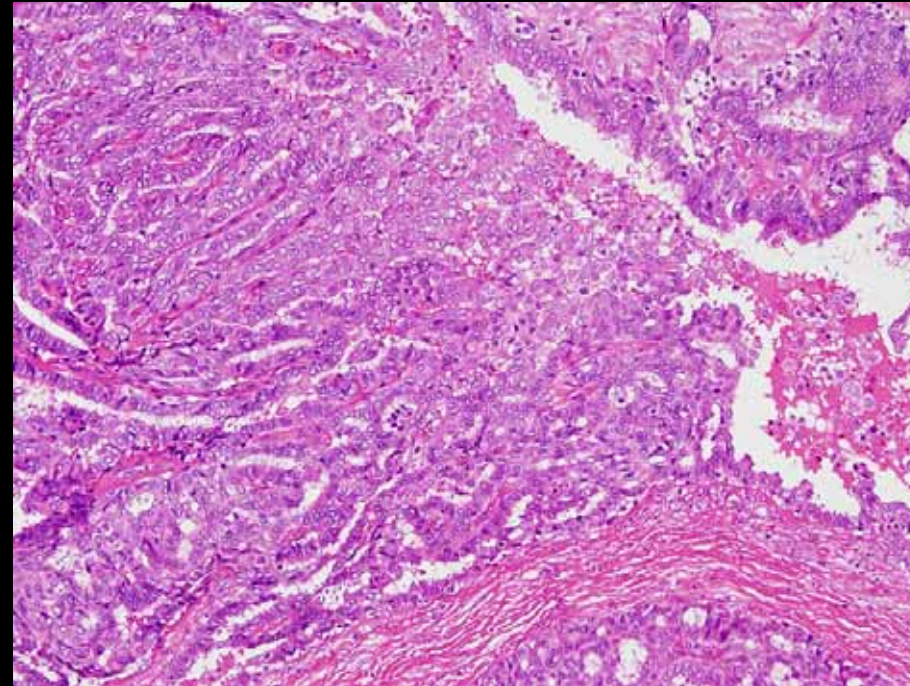
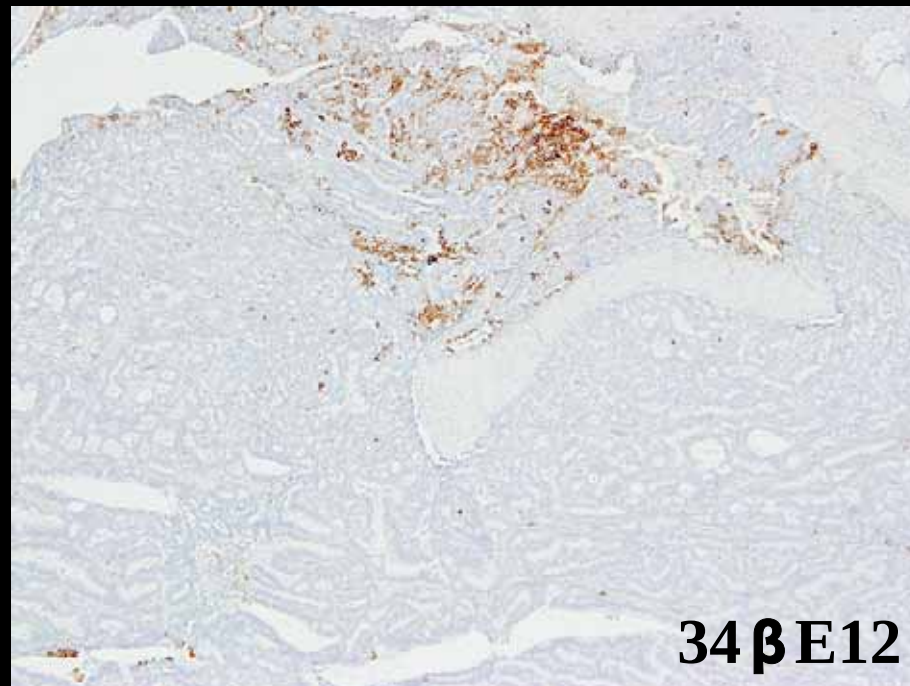
一部に筋上皮と思われる細胞の介在をみとめ、やや多彩な組織所見を呈する

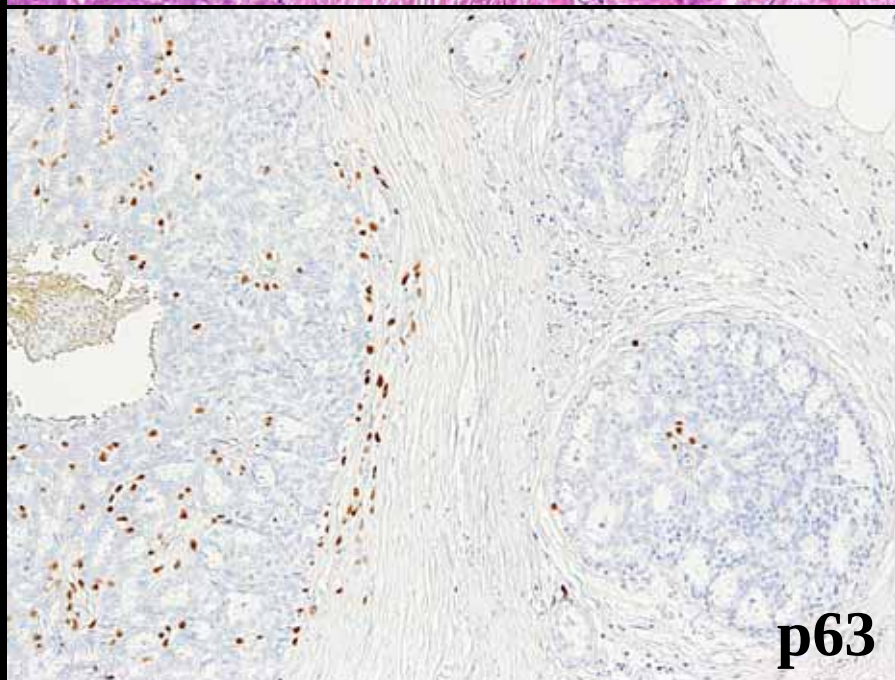
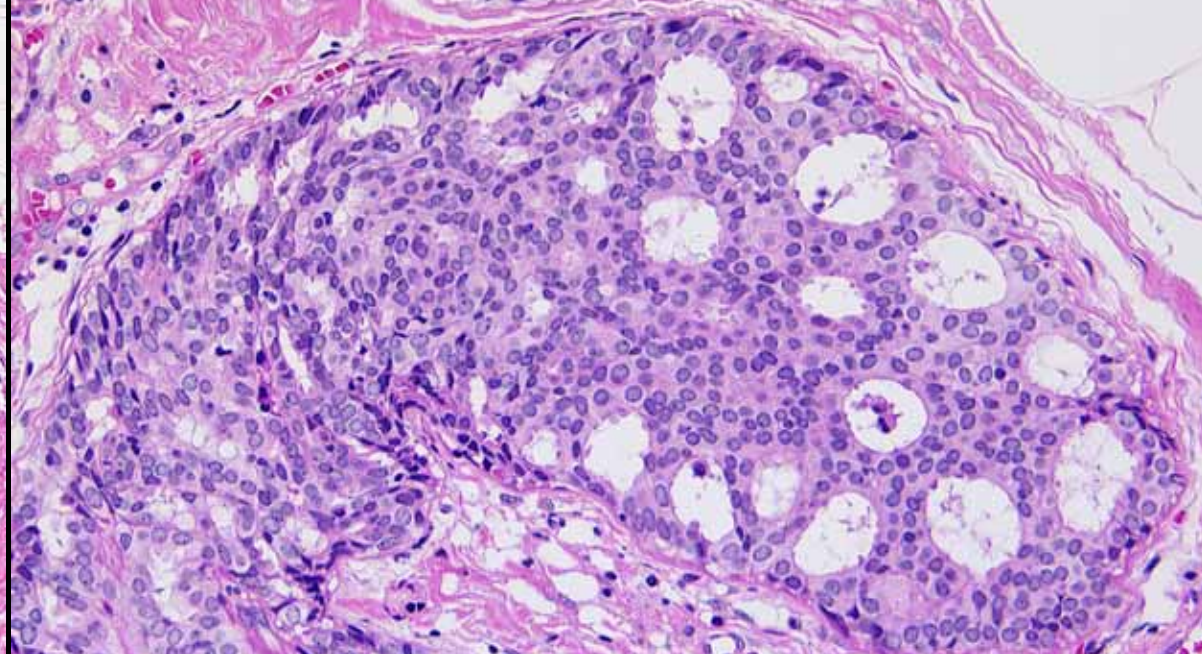
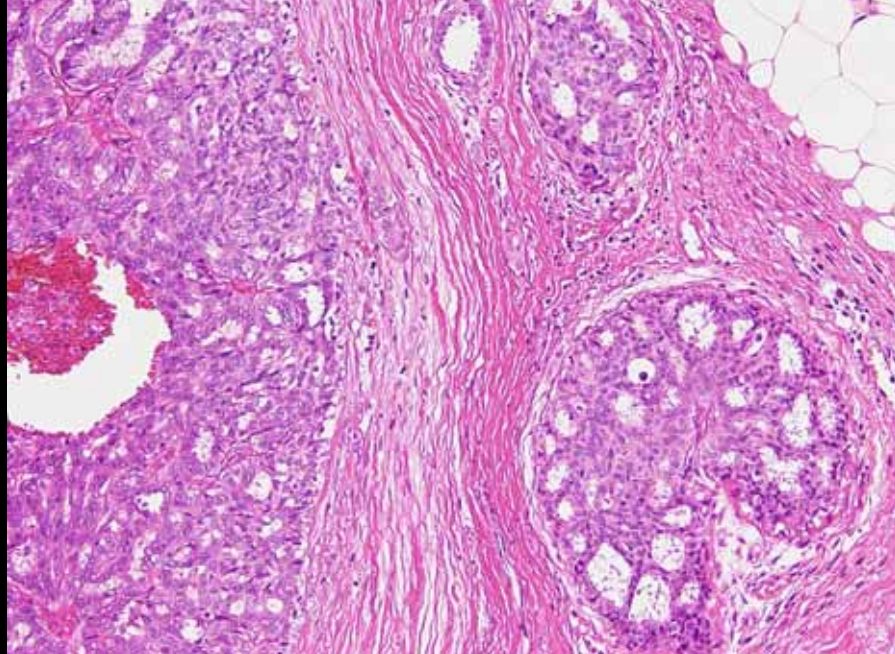
初回の切開生検材料の組織像



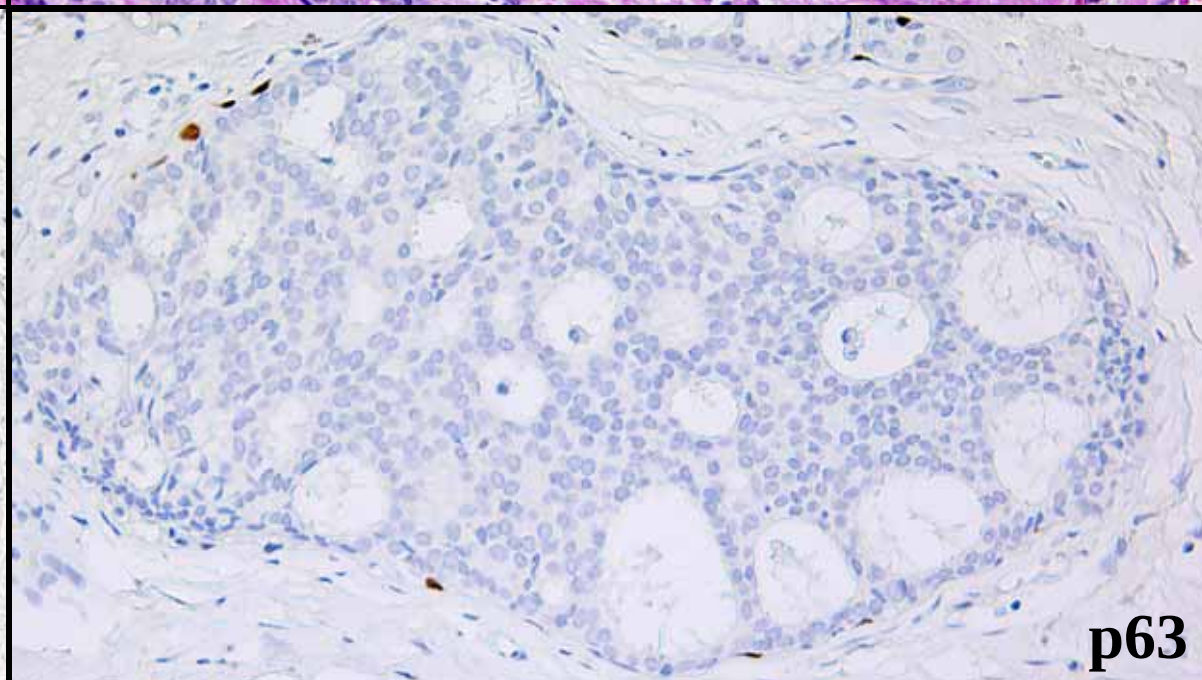
p63

p63 に染色される筋上皮と思われる細胞の介在をみとめる





p63



p63

乳管内進展部分では筋上皮細胞の介在は乏しい

組織診断

Ductal carcinoma in situ (papillary/cribriform)
Van-Nuys Classification, Group 1
(low nuclear grade, without necrosis)

鑑別診断

Intraductal papilloma
Intraductal papillary carcinoma

乳頭腫および異型あるいは癌を伴う乳頭腫，乳頭状癌

Papilloma

Papilloma with atypia (atypical papilloma)

Papilloma with ductal carcinoma *in situ* (DCIS)

Papillary ductal carcinoma *in situ*

Papillary carcinoma

乳頭腫には細胞異型あるいは癌を伴う症例が報告されており癌と判定される領域の多寡により種々の名称が用いられる。また乳頭状構造を呈する癌もみられるが本邦の乳癌取扱い規約では非浸潤癌あるいは乳頭腺管癌に分類される

乳頭腫および異型あるいは癌を伴う乳頭腫

Papilloma

Papilloma with atypia

Papilloma with DCIS (non-comedo DCIS >3mm)

Page DL, et al Cancer 78:258-266, 1996

Carcinoma arising in papilloma

1/3<atypical proliferation <90%

Atypical papilloma

atypical proliferation <1/3

Tavassoli FA Pathology of the Breasts. 2nd edn Appleton & Lange, 1999

Papilloma with DCIS

その広さは問わない

Elston CE & Ellis IO The Breast. Churchill Livingstone, 1998

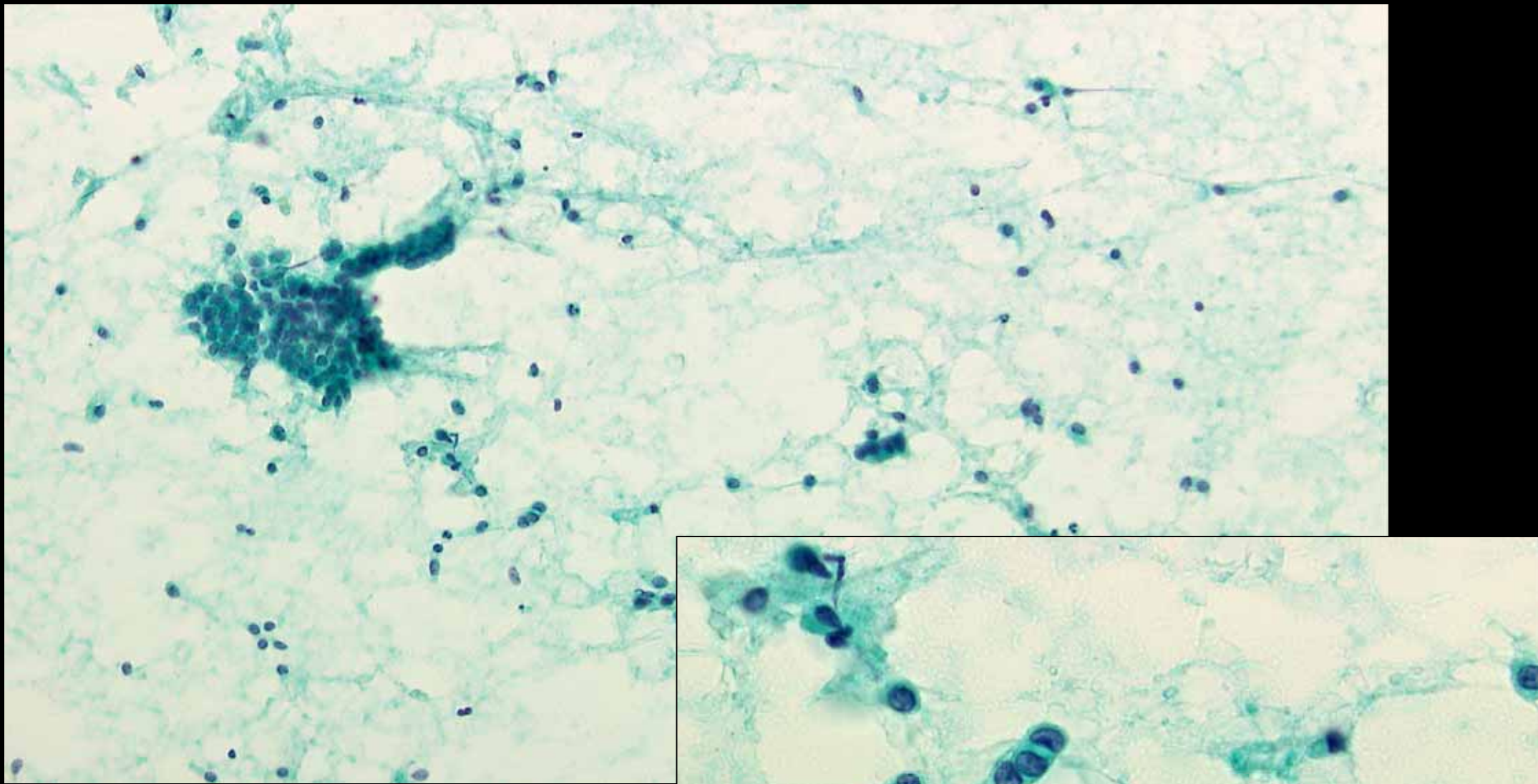
筋上皮を伴う非浸潤性乳頭状乳管癌は *de novo* の乳頭状乳管癌というよりも、先に存在していた乳頭腫のかなりの部分を非浸潤癌が占拠してしまった状態ではないか。

In our view, lesions illustrated as “papillary DCIS” that have myoepithelial cells in the papillae probably represent pre-existing benign intraductal papillomas that have become extensively involved by DCIS rather than *de novo* papillary DCIS.

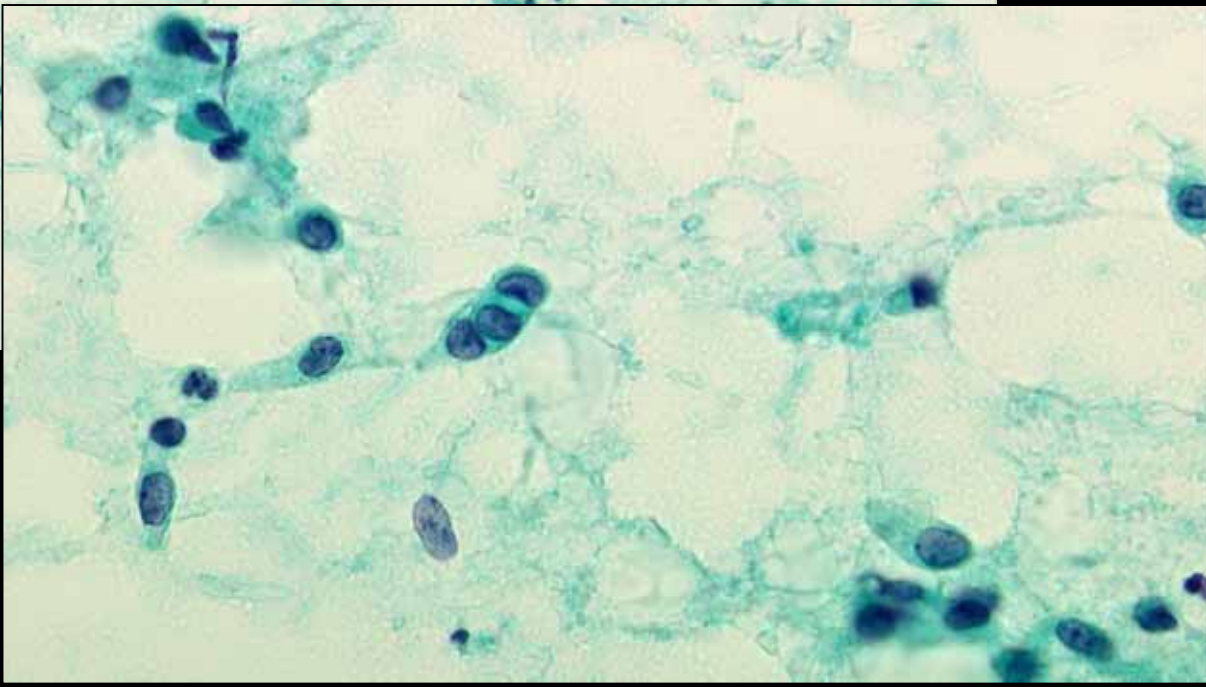
Collins LC & Schnitt SC : Papillary lesions of the breast: selected diagnostic and management issues. *Histopathology* 52:20-29, 2008.

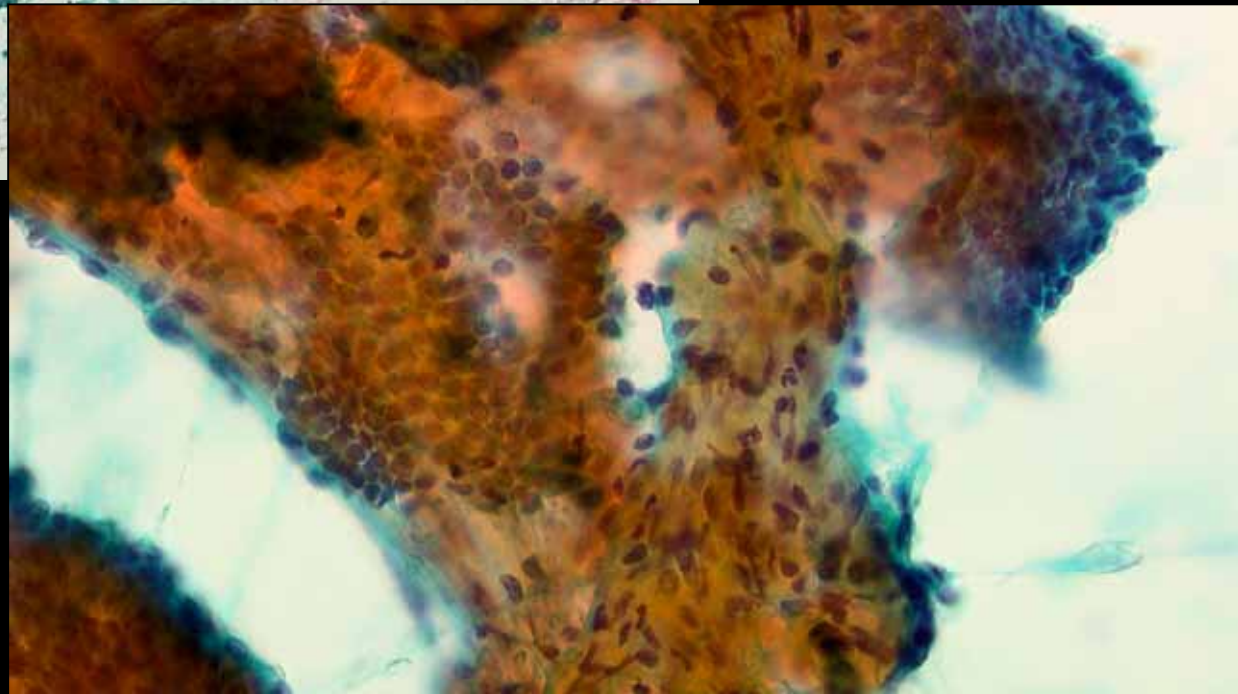
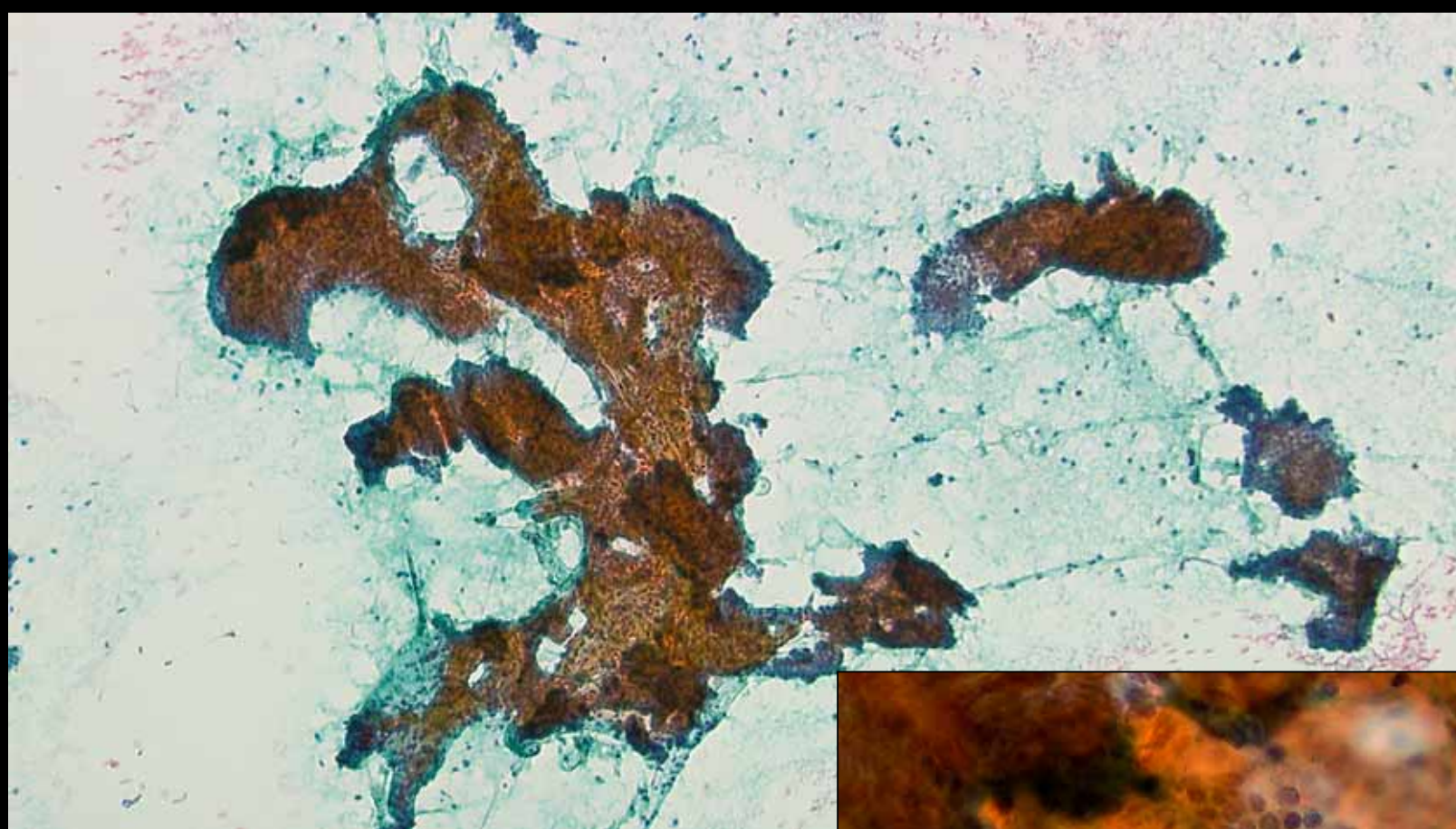
本症例は筋上皮の残存および化生を示す細胞が部分的にみられ、乳頭腫内にあるいはそれとともに癌が発生し、後者が前者の大部分を置換してしまった症例と考察される。明瞭な乳頭状構造や円柱状癌組織の柵状配列を示す papillary carcinoma に相当する部分もみられるが、それが主体ではないため敢えてこの名称は用いず 単に非浸潤性乳管癌 と診断した。

細胞像のレビュー



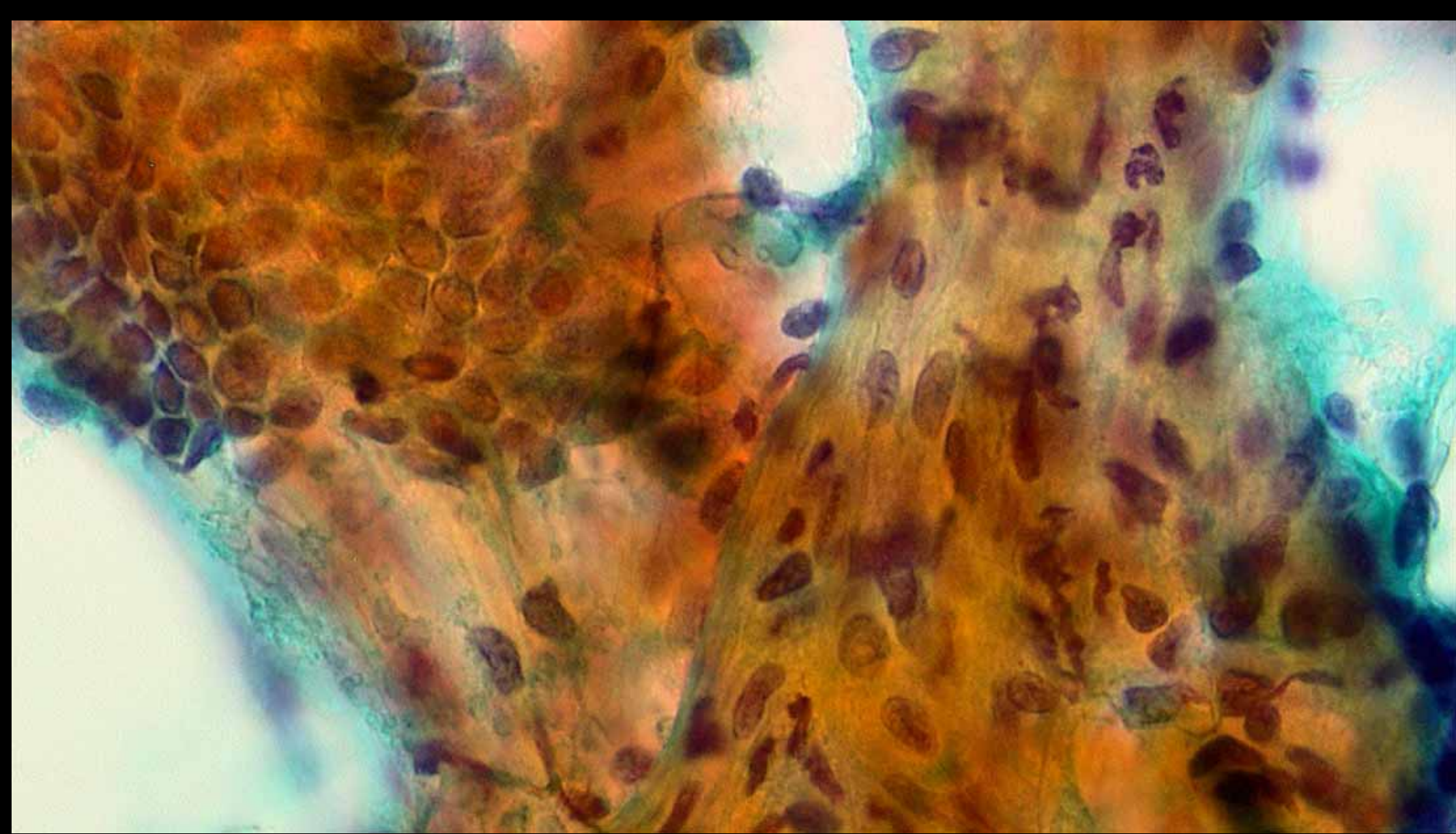
一見線維腺腫を推定させる所見.
細胞質, 線状パターンの存在が
鑑別ポイントとなる



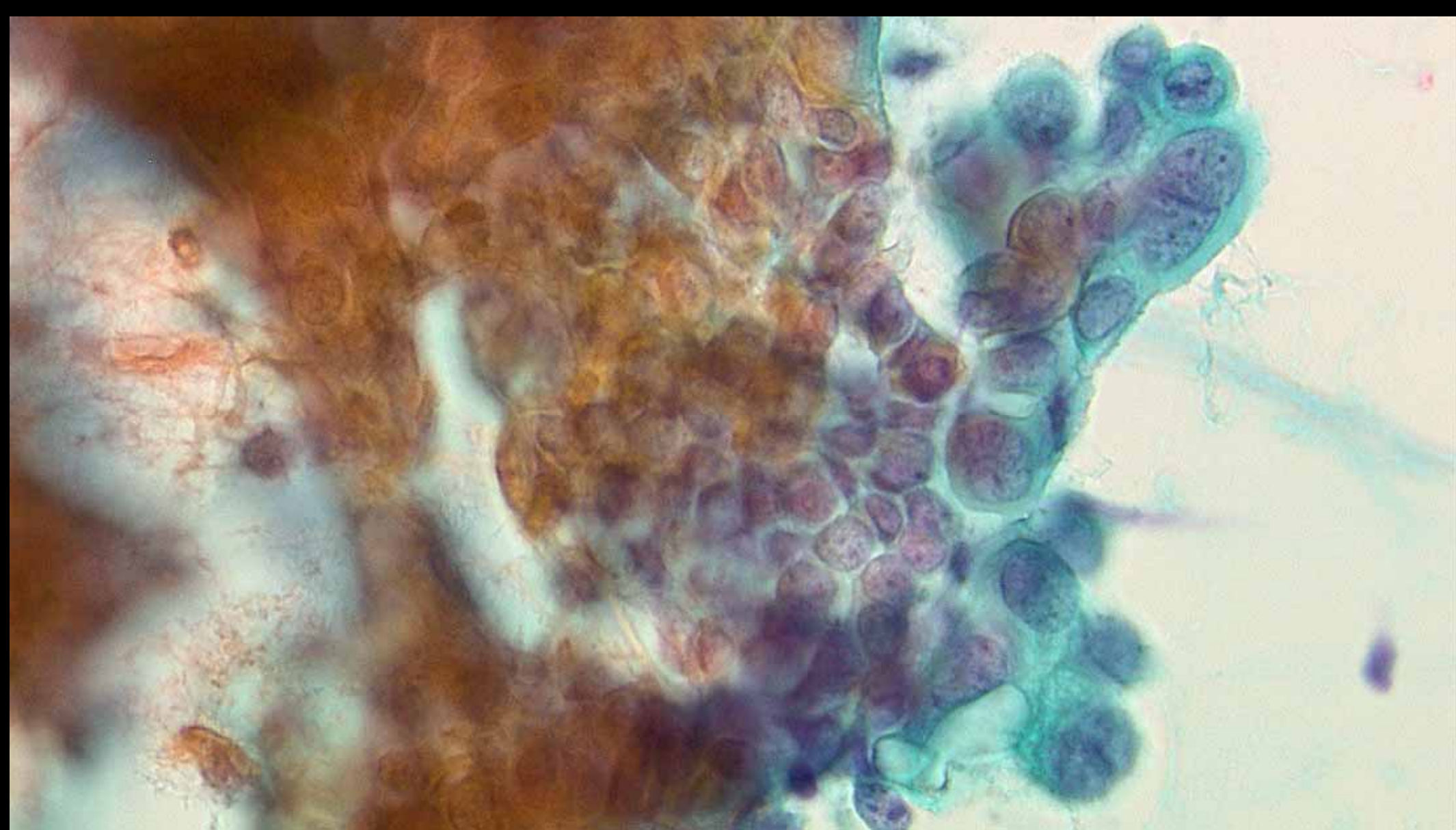


乳頭腫を推定させる所見.

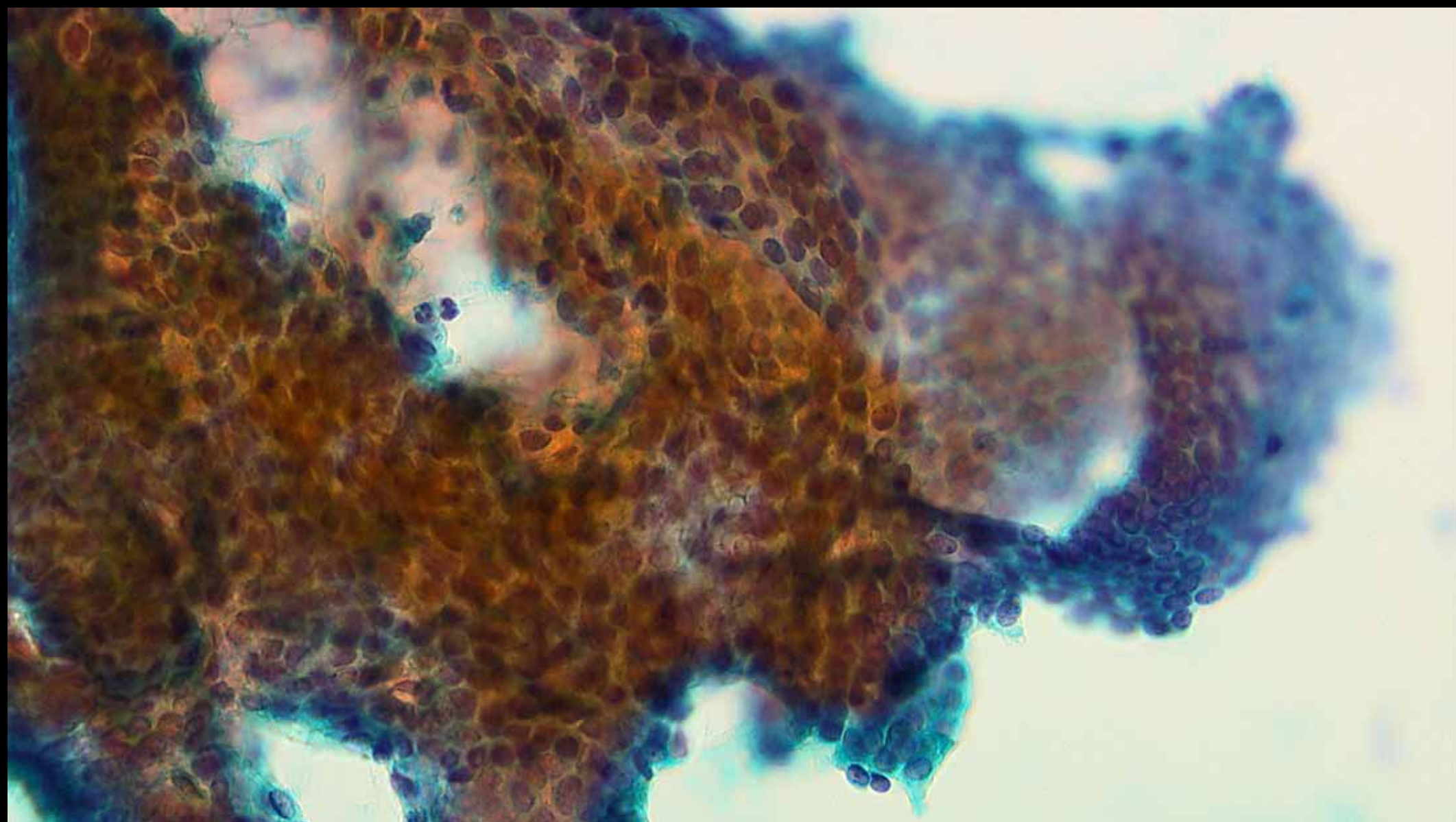
**焦点を変えることにより筋上皮
と思われる細胞が線維性間質上
に出現する.**



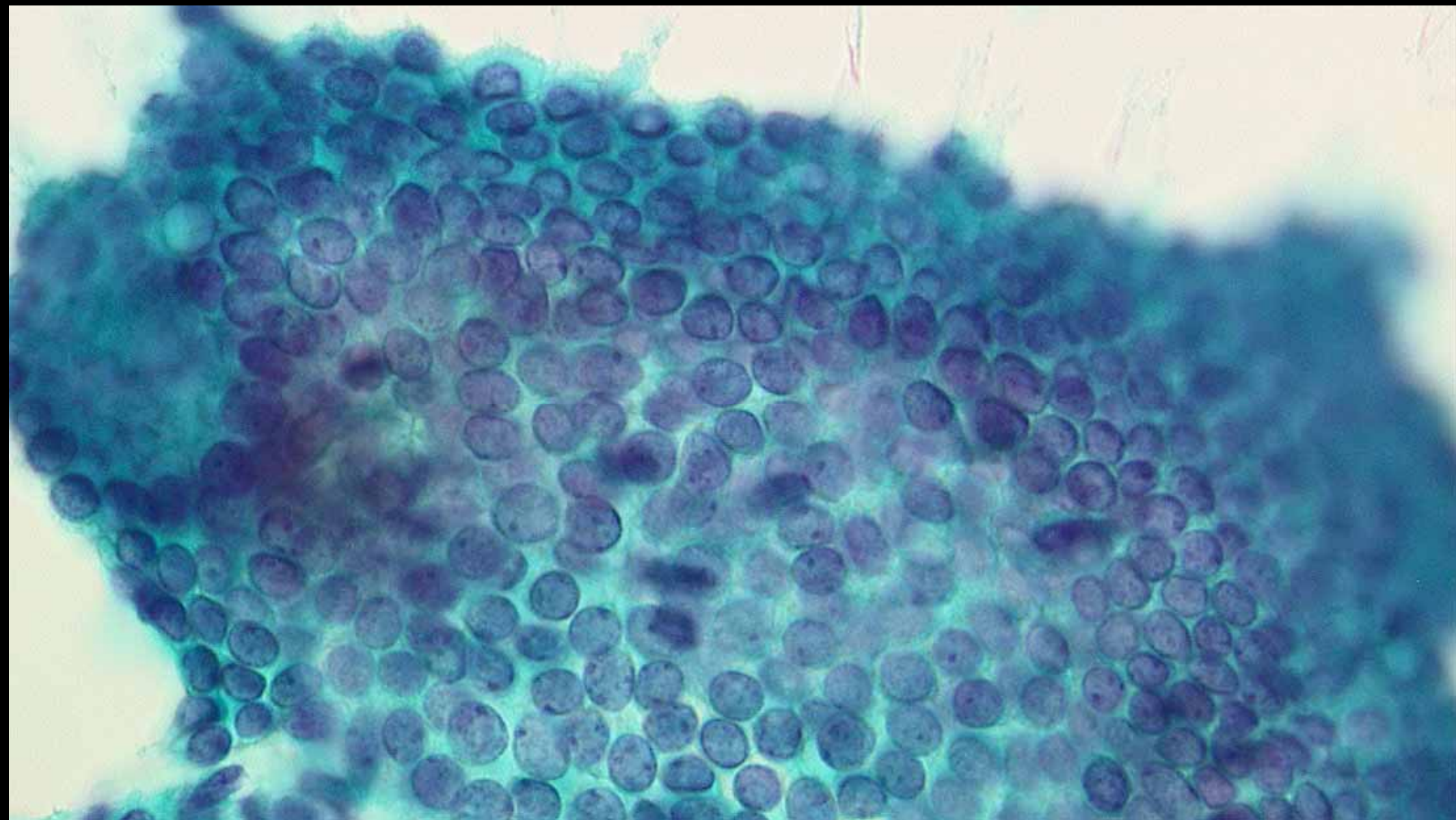
線維性間質に大乳管型筋上皮細胞の付着が見られ乳頭腫推定させる



乳頭腫を推測させる所見. 化生細胞の存在を推定させる. しかし本所見はごく一部にしか認められない.



殆どの集塊では核異型度の低い細胞により構成され単調な様相を呈する



若干の核の大小不同はみられるものの張りのある円形核による単調な細胞構成を示す.

考 察

穿刺細胞像では低倍率でほつれた細胞が大きな集塊周囲に散在する所見より一見線維腺腫様の所見を呈するが強拡大ではいわゆる双極裸核ではなく、一部には索状配列を示すものも見られる。一部に線維性間質を伴うものがみられ、強拡大では大乳管型筋上皮と思われる様な細胞付着をみとめ、やや細胞質の広い化生を思わせる上皮細胞をごく一部にみとめた。全体にみられる細胞には異型が乏しいこともあり乳管内乳頭腫が鑑別に挙げられる。しかし大部分を占める細胞は核異型度が低いものの円形で張りがある、均質な核所見である等より低異型度の乳管癌は否定できない。乳腺症は様々な細胞パターンを示し、乳管腺腫でも同様でさらにアポクリン様細胞、著明な腫大核がみられるなど多彩な細胞所見が特徴である。

細胞像から乳頭腫が推定されるもののその特徴がすべての細胞集塊において見られるわけではない、細胞異型がみられる等の場合は常に悪性を鑑別に挙げ、臨床像、特に画像所見との対比につとめ、更なる検査につなげるための報告をすべきである。核異型度の低い症例では細胞所見の単調さが悪性を推定させる重要な所見と思われる。